

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2019

課題番号：26284040

研究課題名(和文)日本現存福州版大蔵経の総合的研究の深化と典籍学への応用

研究課題名(英文)Overall study of the Japanese existence Fuchou edition complete collection of Buddhist Sutras, Laws and Treatises

研究代表者

牧野 和夫(MAKINO, KAZUO)

実践女子大学・研究推進機構・研究員

研究者番号：70123081

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 8,500,000円

研究成果の概要(和文): 日本各地の宋版大蔵経を訪ね、版本の基本的な識別基準「刊(いつ板木を彫って出版されたか)・印(いつ板木で刷ったのか)・修(いつ板木の補修などを行ったのか)」に関する実物調査によって、宋代の中国国内での出版活動の実態、日本への舶載の具体的な経緯などの多くを解明した。特に愛知県本源寺蔵の大蔵経を中心に精細な印刷面の調査を行った。一旦完成した板木は、印刷を繰り返すうちに劣化するため、新たに板木を起こす。印刷面の比較により、中国国内で印刷された時期の差が明瞭となった。板木には彫り直し(補板)資金の寄進者名が刻まれるが、日本僧も多く寄進者名を残しており、鎌倉時代の政治史と係ることも解明できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、従来の律系の入宋僧の役割が極めて深く日宋両国の政治史に係わり、アジアの出版文化を直接担うものであったことに確実な資料的な裏付けを与えたことであろう。しかも具体的な印刷物(板木で刷ったもの)で確認できたことは、社会的意義について云えば、十三世紀中後期アジアの文物の動きを「文字資料」以外の「もの」に視野を広げて追うことができる可能性を示しえたと考えられる。

研究成果の概要(英文): The Sung edition complete collection of Buddhist Sutras, Laws and Treatises in a various part of Japan was visited, and much of the reality of the publication activity in China and the longitude and latitude in detail of the import by vessel to Japan of the Song, charge was elucidated by the real thing investigation about the basic distinction standard of the printed book "kan (When did you carve a block and be published?), In (When was it printed by a block?) and Syu (When was a block repaired?)" Minute type page was investigated focusing on the complete collection of Buddhist Sutras, Laws and Treatises of Aichi-ken Honngenji temple warehouse in particular.

研究分野：中世国文学・日本中世文化

キーワード：大蔵経 宋版 刻工名 福州版 東禅寺版 開元寺版 入宋僧 板木

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景について記すことから始める。東アジアにおける出版文化を考える上で中国宋代の出版活動は起点となるもので、その後の東アジアの版刻の歴史の流れに多大な影響を与えたことは言うまでもない。我が国の出版の歴史の独自の発展を辿るには、宋代の木版印刷技術の受容消化を明らかにすることが必須である。その具体的な遺産の最大のものが宋刊一切経である。

日本における中世以前の「文字資料」の多くは「書写(写本)」という形で現存しており、写本研究に偏る傾向が顕著であった。一切経に関する研究についても、古代、中世を通じて書写一切経に集中し重厚なものがある。特に近年の院政期から中世前期の書写一切経に関する充実した研究として、中尾堯・落合俊典・宮崎健司・斉藤俊彦・上川通夫の業績をあげることができる。

一方、刊本大蔵経の研究、特に宋版大蔵経の研究は、日本を含めた東アジア史に占める位置の重要性にも拘わらず、その龐大な員数の確認と版種の識別確定が従来の調査研究の目的であり、その書誌的・版本学的な研究は比較的少ない状況にあったと言える。昭和54(1979)年の同朋大学仏教文化研究所編『本源寺(旧三聖寺旧蔵)蔵宋版一切経目録』の刊行は極めて注目すべきもので、平成9(1997)年の『神奈川県立金沢文庫保管宋版一切経目録』の刊行と共に、その後の宋版大蔵経研究の盛行へ導く先駆的な業績であった。

しかし、宋版大蔵経の研究には、調査の主要な点である刻工名(中国では彫り手の名を刻す)・印造記(刷り手の名を印記などで残す)などの精細な調査に基づく相互比較に立脚した刷印の先後の確定が必須であり、未だ十分な研究環境にあるとはいえない現状であった。いずれの蔵の報告書もそれらの情報を項目とした調書の作成に拠らなければならないのである。

## 2. 研究の目的

木版印刷物において重要なことは、刊行の時期(刊)、印刷の時期(印)、補刻(修、板木の痛みや訂正などの部分的な場合、板木を新たに彫り直す場合)の識別であり、その為の最良の方法が出版物相互の比較検討、敢えて言えば每板の比較検討である。いわゆる宋版の漢籍は、宋刊の仏教書に比して遺存例は極めて稀少で珍重されてきたが、そのことは典籍研究において同版の比較検討すべき点数が相対的に少ないことを意味する。従って諱・欠画(筆)の重視、字様(書風のような印刷文字の特徴)・料紙・墨などに基づく判断の尊重がされてきた(日中両国同様であった)が、漸く版式・刻工名・印造記に近年の研究の関心は移りつつある

我が国は輸入された仏教書の宝庫と称して過言ではなく、とりわけ同じ版(福州版・思溪版など)の龐大な一切経が幾組(しかも短期間の舶載)も寺院に護持されてきた。本源寺蔵一切経もその版種や刊・印・修を明確にし、他の寺院(近年、我が国では醍醐寺蔵宋版一切経の詳細な目録が刊行され、中国では国家図書館蔵(日本法金剛院旧蔵楊守敬買得)の所蔵する一切経との比較検討が望まれる環境になりつつある。かかる研究動向の顕著な時期に、刻工名・印造記などを中心とした一切経目録を作成出版することは、極めて有意義であると判断した。本研究によって日本各地の宋版大蔵経を訪ね、版本の基本的な識別基準、「刊(いつ板木を彫って出版されたか)・印(いつ板木で刷ったのか)・修(いつ板木の補修などを行ったのか)」に関する実物調査に基づき、宋代の中国国内での出版活動の実態、日本への舶載の具体的な経緯などの多くの課題を解明する。特に本研究では愛知県本源寺蔵の大蔵経を中心に精細な印刷面の調査を行う。一旦完成した板木は、印刷を繰り返すうちに劣化し、新たに板木を彫る必要が生じる。印刷面の比較により、中国国内で印刷された時期の差が明瞭となるのである。彫り直し(補板)資金の寄進者名が刻ま

れるが、日本僧も多く寄進者名を残し、鎌倉時代の政治史と係ることも明らかである。即ち、九条道家の兄とも伝わる法華山寺慶政を巡る入宋僧(慶政自身、頼賢、了行など)の福州版大蔵経将来・補刻事業の営為について、刻工名・捨財刊語の方面からの精細な調査により解明する。

### 3. 研究の方法

本研究グループは日本各地の現存福州版大蔵経を訪ね、版本の基本的な識別基準「刊・印・修」に関する詳細な調査によって、従来ほとんど指摘されずに残されていた中国国内での版刻の実態、日本への舶載の具体的な経緯などを基本的には解明する。

書誌的な進展としては、特に本源寺蔵宋版大蔵経は第一回調査・再調査を終え、更に補充調査に移り、部分的に精細な印面調査を加えることにも留意した調査をも進める。各帖の刻工名などの詳細を加えた目録の報告書刊行をめざすため、従来の調査の蓄積を重点的に整理する。記入漏れの確認などのほか、印面の「良・悪」について記述の徹底を図る。細かな点に留意した更なる見本撮影の必要性も確認でき、近い将来に計画している宋版大蔵経調査に必須な参考工具書の作成に向け有益な成果を得るようにつとめる。

併せて日本舶載の経緯を政治史・宗教史の面から資料的に探究するために、寺社に残された歴大な量の聖教類の实地踏査に参加して従来活用を見なかった関連資料の蒐集・分析に従事する。具体的には、従来殆ど看過されてきた慶政・頼賢・円照などが相互に連動する複雑な動向に留意した資料に特化した収集が急務となる。

### 4. 研究成果

九条道家(1193-1252)の兄とも伝わる法華山寺慶政を巡る入宋僧(慶政自身、頼賢、了行など)の福州版大蔵経将来・補刻事業の営為について、刻工名・捨財刊語の方面からの精細な調査により解明した。その法華山寺に居住した入宋僧の入宋期間中の文暦二年(1235)に作成された九条道家の「四天王寺阿弥陀経供養願文」は、我が国の施財・祈願による宋の地における開版事業の企画を含むという点で特異である。道家が文暦二年仲春に「阿弥陀経一卷を自写し以て宋朝に送り、模刻し十万巻を離印流布(施印)させようとしたこと」、即ち、「自写」という行為が加わる点でも看過しがたい特徴がある。明らかに道家には、唐土の「施印」という作善が意識されていた。自写の經典の刻離は、おそらく道家の書写(書体)を刻す、ということで写刻体の經典刊行を意味するが、その背景に道家の側近く侍した法華山寺慶政を軸にした唐土における大蔵経補刻事業への積極的な関与(補刻に要する膨大な捨財、多くの入宋僧への資金提供など)があった、ということが推測され、道家の壮大な宗教構想が明らかになった。

一方、延長の令和元年度は、昨年度頻発した天候不順による日程の変更・中止などを顧みて、昨年度までと同様な人数をかけた共同調査計画を見送り、即時対応可能な研究代表一人の活動、予算に応じた計三回にわたる調査と関連学会での講演や研究会参加・情報蒐集に切り替えた。三回の調査はいずれも短期間のもので、醍醐寺における大蔵経補充調査、策寺における一切経舶載受容の展開に係る聖教類の調査、九州国立博物館寄託知恩院蔵大蔵経の継続調査である。これまでの問題点の洗い出しに多くの成果があった。関連学会への参加は、今後の調査範囲拡大(具体的には、福州版以外の宋版大蔵経である思溪版など)の方向性について多大な知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義は、従来の律系(西大寺系の律僧)の入宋僧のみならず、泉涌寺・法華山寺・東大寺戒壇院系の入宋僧の役割が極めて深いものがあったことである。日宋両国の政治史にも係わり、アジアの出版文化を直接担うものであったことに確実な資料的な裏付けを与えた

ことであろう。しかも具体的な印刷物（板木で刷ったもの）で確認できたことは、社会的意義について云えば、十三世紀中後期アジアの文物の動きを「文字資料」以外の「もの（板木）」に視野を広げて追うことができる可能性を示しえたと考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 96
2. 論文標題 「秀範 聖海」の相承血脈をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 94
2. 論文標題 補遺三題 孔子論図・弥谷寺蔵三宝院聖教類・宋刊写刻体經典	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 93
2. 論文標題 生人形絵番付『西國順礼靈験記』とその周辺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 25-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 91
2. 論文標題 宋版一切経の舶載に係る一、二の問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 164-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 52
2. 論文標題 中世聖徳太子伝記の一隅 成阿弥陀仏など	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 1
2. 論文標題 「自写」経典の宋の地における開版	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 2016和漢比較文学研究会論文集	6. 最初と最後の頁 99-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 88
2. 論文標題 福州版大蔵經における刻工と印面 東禅寺版	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 50
2. 論文標題 根来寺 四周と延慶本『平家物語』 その「往還」の試み	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 89
2. 論文標題 中世文学史の一隅 遁世僧の営為の痕跡を辿る	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 牧野和夫	4. 巻 86
2. 論文標題 日本現在〔南宋〕刊『大蔵一覽集』について	5. 発行年 2014年
3. 雑誌名 実践国文学	6. 最初と最後の頁 16-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 再び、中世文学史の一隅 「秀範」を軸に
3. 学会等名 佛教文学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 孔子項託の圖像について 日本残存資料から
3. 学会等名 国際セミナー「漢代画像石を巡って」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 生人形絵番付『西國順礼靈驗記』をめぐる一側面
3. 学会等名 日中韓国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 中世聖徳太子伝記の一隅 成阿弥陀仏など
3. 学会等名 平成28年度説話文学学会大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 「自写」経典の宋の地における開版
3. 学会等名 平成28年度和漢比較文学学会特別例会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 根来寺と延慶本『平家物語』の周辺資料
3. 学会等名 国文学研究資料館シンポジウム紀州地域と寺院資料・聖教（招待講演）
4. 発表年 2015年



1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 刻工名より見た見在舶載典籍の一端
3. 学会等名 和漢比較文学会第8回海外特別例会（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 牧野和夫
2. 発表標題 福州版大蔵經の一、二の問題
3. 学会等名 国際シンポジウム人類共有の資産としての東アジア文史哲（国際学会）
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 牧野和夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 448
3. 書名 寛城院資料の調査と研究	

1. 著者名 牧野和夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 中四国諸寺院	

1. 著者名 牧野和夫	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 340
3. 書名 南岳衡山と聖徳太子信仰	

1. 著者名 牧野和夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 大橋直義編 根来寺と延慶本『平家物語』	

1. 著者名 牧野和夫、大橋直義、藤巻和宏、高橋悠介他	4. 発行年 2014年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 271
3. 書名 中世寺社の空間・テキスト・技芸	

1. 著者名 野沢佳美	4. 発行年 2015年
2. 出版社 立正大学情報メディアセンター	5. 総ページ数 121
3. 書名 印刷漢文大蔵経の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 悠介  (TAKAHASHI YUSUKE)  (40551502)	慶應義塾大学・斯道文庫(三田)・准教授    (32612)	
研究分担者	上杉 智英  (UESUGI TOMOFUSA)  (50551884)	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部美術室・研究員    (84301)	
研究分担者	野沢 佳美  (NOZAWA YOSHIMI)  (80277748)	立正大学・文学部・教授    (32687)	